

様式1〔申し合わせ事項〕 【委員会、全協：共通様式】

令和 5年 7月21日

教育民生常任委員会

委員長 川瀬孝代 様

東員町議会 議員 中村 等

研修期間	<u>令和 5年 7月 12日 (水)</u> ～ <u>7月 13日 (木)</u> 【2日間】
研修(視察)先	12日(水) 徳島県上勝町(バンゲアフルド) 13日(木) 徳島県庁
目的(テーマ等)	12日(水) 徳島県上勝町(バンゲアフルド) ・ゼロウェイストの取り組みについて 13日(木) 徳島県庁 ・健康ポイントアプリについて
資料添付の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。

## 様式 1〔申し合わせ事項〕：【委員会、全協：共通様式】

〔議員氏名： 中村 等 〕

### 研修概要、内容、所感

令和 5 年 7 月 12 日（水）13（木）に教育民生常任委員会と事務局 2 名を含む 9 名で 12 日徳島県上勝町(バンゲアフルド)13 日 徳島県庁町での委員会研修に参加しました。

初日、午前 6 時 50 分に役場をマイクロバスにて出発し、研修先の徳島県上勝町(バンゲアフルド)へ向かいました。

研修は午後 1 時から上勝町長の挨拶のあと、合同会社パンケアの野々山 聡氏からゼロ・ウェイストやいんどり事業について説明を受けた。

上勝町は日本で初めてゼロ・ウェイスト宣言した町であるが、町の総面積の 85% が山林で、急な斜面もびっしりと植林されており、今は木を切れば切るほど赤字となるためこれといった産業も無く過去には林業とみかんの栽培が盛んで 6 千人ほどの町民が暮らしていたが、過疎化と少子高齢化が進み人口が約 1500 人、高齢化率が 50% 以上の四国で一番小さな町だそうです。

子どもたちが中学生になると家族ごと市の中学校に引っ越してしまい 2040 年には人口は 900 人を切ると予想され、町は 1000 人維持することを目指しています。

ごみについては、平成 10 年に小型焼却炉が設置されるまで、大きな穴を掘り、その穴にごみを町民が自分で放り入れ、野焼きをしていました。

その後、小型焼却炉を設置し 2 年ほど稼働させましたが、2 基の内 1 基がダイオキシンの規制により閉鎖。

現在は「日比ヶ谷にごみステーション」に各自が生ごみ以外を持ち込み分別しています。

分別の表示にはここに何を集めているのかだけでなく、これらに幾らお金がかかるものかあるいは入ってくるものなのか、またリサイクル先の場所、何にリサイクルされるのか一目了然になっていて、ごみのこれからの行き先を知る、経費を知るという事は、ごみや環境問題を 1 人 1 人が自分の課題として捉えるためにも、必要な事だと思いました

研修 2 日目は徳島県庁で「テクとく」事業の説明を聞いた。

徳島県では、健康づくりへの意識向上を図るため、スマホアプリを活用し、個人の健康づくりに関する取組（歩数、体重・野菜摂取量の入力、健康イベントへの参加等）に対し「健康ポイント」を付与し、貯まったポイントに応じて「店舗での特典」や「賞品への応募」により、「楽しく！」健康づくりへの意識向上を図り、健康づくりをサポートする、とくしま健康ポイントアプリ「テクとく」を運用しているとのこと。

なによりも参加者(県民)の持続性面が重要であり、これらの問題に県が今後どう対応していくのか注視していきたい。